

しまくとぅば普及関係者各位

沖縄語教育研究 7

沖縄語の主な書法の比較 (4 枚)

2009年11月25日

沖縄語研究家 船津好明

現在、沖縄語の書法は定まったものがなく、書き手は思い思いの書き方で書いています。書法の乱立は学習者にとって迷惑です。

書法の用途は、大別して研究用と教育用に分けられます。研究用書法の代表的なものは、沖縄語辞典（国立国語研究所、1963年）で使われているローマ字を中心とする書法です。研究は以前から堂々とできましたから、これ以外にも違った書法があります。

一方、沖縄語の話者を育てるための教育は、沖縄語を巡る歴史の流れから、堂々と出来ることではありませんでした。沖縄語の話者を育てていく方針が公的に示されたのは2006年で、県条例「しまくとぅばの日」で謳われています。そのためには教育用の書法が必要です。

本稿は多くの書法の中で、日本文字を主体とする表記法で表記の方針が公表されているもの三点を比較して、沖縄語教育の観点からその長所短所をまとめたものです。

（書法の比較研究に用いた文献）

- 1、船津好明著「伝統文化の真髄 美しい沖縄の方言」、技興社、1988年4月。
- 2、宮里朝光等著「沖縄ぬ暮らしと昔話」、沖縄語普及協議会、2006年7月。
沖縄語普及協議会「沖縄語新聞」各号。
- 3、比嘉清著「うちなあぐち賛歌」、三元社、2006年10月。

（船津の書法と他の二氏の書法の比較の根拠）

船津の書法は、宮里朝光氏等や比嘉清氏の書法を、教育的観点から改善したものです。上の各文献の刊行時期は船津が1988年、宮里氏等と比嘉氏が共に2006年で、船津の方が18年も早いのですが、結果的に両氏の書法の改善になっていることを説明します。

船津が沖縄で暮らしていた1983～5年の頃、既に沖縄語の本はだいぶあって、その書法は多様であり、宮里氏等や比嘉氏の書法に似た書法で書かれたものは多く見られました。その頃は沖縄語は衰退まかせでした。船津は沖縄語を存続させるべきで、そのためには子供達にも教えるべきだと思っていました。現在の県条例「しまくとぅばの日」の趣旨と同じことを考えていたこととなります。そして教育用書法の必要性を痛感し、敢えて当時の表記法の実態調査を行ない、問題点を洗い出し、新しい書法を考案して人々に試行をお願いし、結果をまとめて発表しました。これが、船津の書法が宮里氏等と比嘉氏の書法を教育的観点から改善したものであると述べた理由です。

(各書法の要点の比較)

次表は、沖縄語の話者を育てるための教育の観点から評価したものです。

	船津好明の書法	宮里朝光氏等の書法	比嘉清氏の書法
発音の伝統性	守れる	理念上は守れる 実践上は守れない*	守れない
表記の統一性	誰が書いても同じ	書き手により異なる	書き手により異なる
伝統音の字数	1音1字	1音2～3字	認識せず
破裂音・不破裂音の別	あり	あり	なし
仮名の種類	日本語の仮名と拡張仮名（沖縄文字）	日本語の仮名のみ	日本語の仮名のみ
漢字へのルビ	全てに付ける	一部に付ける	一部に付ける
音の伸ばし	「ー」による	「ー」による	仮名による
手書きの難易	容易	困難*	容易
学習者の読み易さ	容易	困難	困難
学習負担	少ない	大きい*	大きい
仮名の送り方の日本語との整合性	あり	なし	あり

*は実践で確認

三者の文を通観していえることは、宮里氏等や比嘉氏の書法による沖縄語文は、沖縄語を話せる人でないと読めないということです。これに対して、船津の書法による沖縄語文は誰にも読めます。これからの沖縄語教育は、沖縄語を話せない人に沖縄語を教えることが重要です。

(関係各位にお願い)

書法の比較や評価は客観的でなければなりません。しまくとぅばの普及関係者各位におかれましては、沖縄語を次世代に継承していくための教育の観点から、各書法を比較し、独自に評価してみられるようお願いいたします。比較の具体例は3～4頁にあります。

(次頁あり)

(注) ローマ字を中心とする表記法も何通りかありますが、ここでは取り上げません。

照会先

〒1870002 東京都小平市花小金井 2-6-1

船津好明

Tel/Fax 042-467-1273

Email funatsu@mvf.biglobe.ne.jp

主な口語書法の比較

1、船津好明の書法	2、宮里朝光氏等の書法
<p>やーや。</p> <p>やま 山ーちかさん</p> <p>ゆ 言ん</p> <p>ゆ 読むん</p> <p>あーすん</p> <p>わーむん</p> <p>あー 上んかい</p> <p>あなぐ あきが 女、男</p> <p>あーだ 間</p> <p>わじゃあー</p> <p>ん 出じゃすん</p> <p>んかし んなど 昔、港</p> <p>ばーくる</p> <p>い 行ちゆん</p> <p>を 居てい</p> <p>うま 思ーりーん</p> <p>えーま 八重山</p> <p>えーさち 挨拶</p> <p>はねーちょーん</p> <p>さんしん 三線</p>	<p>っやーや</p> <p>や 山まーちかさん</p> <p>っゆ 言ん</p> <p>ゆ 読むん</p> <p>っわーすん</p> <p>わーむん</p> <p>っういー 上んかい</p> <p>をうなぐ ういなぐ をうきが ういきが 女、女、男、男</p> <p>っうえーだ 間</p> <p>わじゃうえー</p> <p>っん 出じゃすん</p> <p>んかし んなど 昔、港</p> <p>ゆいーくる</p> <p>い 行ちゆん</p> <p>をう 居てい</p> <p>う 思まーりーん</p> <p>ゆえーま 八重山</p> <p>えーさち 挨拶</p> <p>はねーちょーん</p> <p>さんしん 音楽</p>

宮里朝光氏等の書法と比嘉清氏の書法は、漢字へのルビは必ずしも付けないのが原則ですが、ここでは比較のため、全ての漢字にルビを付けました。

3、比嘉清氏の書法	発音（国立国語研究所、沖縄語辞典）	日本（共通）語訳
やあ 汝や	?jaaja	お前は
やま 山あちかさん	'jamaacikasaN	森は近い
ゆ 言ん	?juN	言う
ゆ 読むん	'jumuN	読む
わ 増あすん	?waasuN	増やす
わあむん	'waamuN	私のもの
ゐい 上んかい	?wi iNkai	上に
ゐなく ゐきが 女、男	'winagu, 'wikiga	女、男
うええだ ゑえだ 間、間	?weeda	間
わじゃうええ	'wazawee	災い
ん 出じゃすん	?NzasuN	出す
んかし んなとう 昔、港	'Nkasi, 'Nnatu	昔、港
いいくる	'iikuru	大抵、しばしば
い 行ちゆん	?icuN	行く
(確定せず)	'uti	居て、において
うま 思ありいん	?umaari iN	思われる
ええま 八重山	'eema	八重山
ええさち 挨拶	?eesaci	挨拶
はねえちょおん	haneecooN	華やかだ
さんしん 三味線	saNs iN	三味線